

令和3年12月28日発行
ISSN 0918-9173

福岡県保健環境研究所年報

第48号

令和2年度

*Annual Report of the Fukuoka Institute
of Health and Environmental Sciences
No.48 2020*



福岡県保健環境研究所

はじめに

令和2年1月に国内で初めて感染が確認された新型コロナウイルス感染症は、全国に感染が拡がり、福岡県においても感染が継続しています。当所では検査体制を整備し対応にあたってきましたが、昭和48年に建てられた庁舎の老朽化は否めず、令和2年9月に新たな庁舎を建設することが決定しました。そして、12月議会においては全国初となる「福岡県ワンヘルス推進基本条例」が制定され、当所は今後ワンヘルスセンターとしての役割も担うことになりました。また、地球温暖化の影響かどうかはわかりませんが、令和2年7月には数十年に一度とされる大雨特別警報が発令され、これは4年連続となっており、大雨災害の常態化が懸念されています。

さて、当所における令和2年度の主な出来事や取り組みについて御紹介します。

保健分野では、新型コロナウイルス感染症の検査体制の強化に加え、新たに整備された次世代シーケンサーを活用したゲノム解析による保健所等の疫学調査支援を行いました。これは、保健所が行った実地疫学情報と感染者から検出されたコロナウイルスの遺伝子情報から、患者クラスター等の感染源及び感染経路を推定するものです。得られた結果は保健所等へフィードバックされ、疫学調査に役立てられます。また、核酸医薬技術を持つバイオベンチャー株式会社ボナック（久留米市）と新型コロナウイルス感染症治療薬に関する共同研究を実施しました。この共同研究は国の大型プロジェクトに採択されており、一刻も早い新薬開発が期待されます。医薬品関連では、ジェネリック（後発）医薬品の品質問題が報道される中、当所においても検査を継続しているところです。

環境分野では、「福岡県希少野生動植物種の保護に関する条例」が5月に施行されました。当所においても希少野生動植物種の保全につながる調査研究を進めていきます。また、7月には「令和2年7月豪雨」において筑後川上流で発生した農薬流出事故の緊急調査を実施しました。さらに、11月には福岡県内で初めて高病原性鳥インフルエンザの発生が確認され、消毒薬の散布に伴う周辺地下水の検査を実施しました。

新型コロナウイルス感染症の流行は、図らずも当所に変革を迫るものとなりました。人の健康、動物の健康、環境の保全を一体として考えるワンヘルスの理念に沿って、県民の安全・安心を図るため、私どもが持つ知見や技術を提供し、先を見据えた調査研究を進めていきたいと考えています。今後とも、私たちの仕事に対する御理解と御支援をよろしく願いいたします。

令和3年12月

福岡県保健環境研究所長 香月 進